

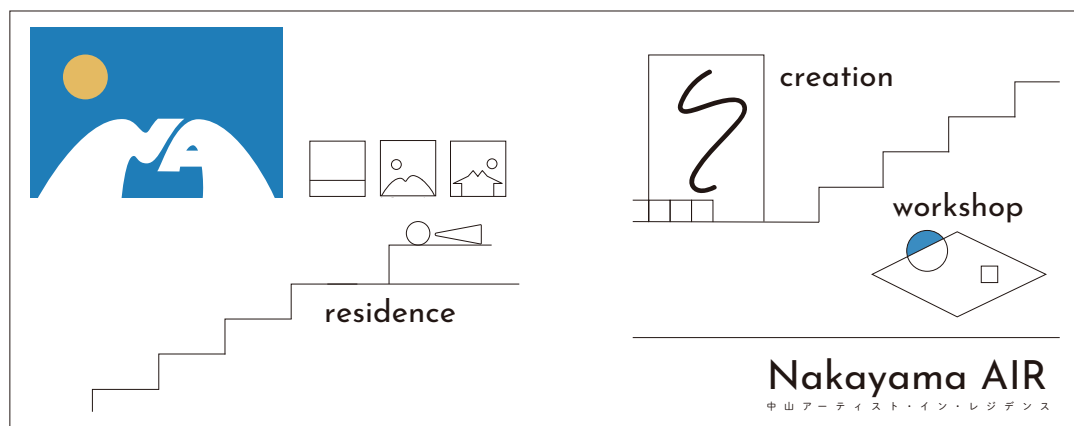


報道関係者 各位

Nakayama AIR

ナカヤマ アーティストインレジデンス 成果発表展
～此岸に浮かぶ筏～（中山法華経寺）のご案内

会 期： 2022 年 3 月 12 日（土）－ 3 月 27 日（日）
時 間： 随時（屋内展示受付の最終入場は 9：30 から 15：45 まで）
会 場： 中山法華経寺（千葉県市川市中山 2-10-1）
出 展 作 家： 大槌秀樹 東弘一郎 大川友希 川田龍 大塚理司 原倫太郎
ディレクター： 豊福亮（株式会社 Office Toyofuku）
料 金： 無料
主 催： ICHIKAWA ART CITY 実行委員会
お 問 合 せ： 電話 047-712-8557



Nakayama AIR Exhibition ～此岸に浮かぶ筏～：2022/3/12|土|－3/27|日|



展覧会について

Nakayama AIRとは、千葉縣市川市中山エリアを舞台とするアーティスト・イン・レジデンスプログラムです。国内外のアーティストを招致し、中山エリアでの作品制作及び展覧会を実施します。Nakayama AIRではアーティストの滞在制作及び展覧会を支援するとともに、ワークショップ、協働制作などの交流プログラムを開催することによって、アーティストと市民との多様な交流を図る場を設け、芸術にかかわる人材の育成及び芸術文化振興の一助となることを目的としています。成果発表として中山法華経寺での展覧会「Nakayama AIR Exhibition ～此岸に浮かぶ筏～」を開催いたします。

スケジュール

2021 年 9 月 18 日	公募開始
11 月 2 日	参加アーティスト決定
2022 年 1 月 11 日～1 月 21 日	プレ展覧会（市川市役所 1 階ファンクションルーム）
1 月 16 日	アーティストトーク開催（ニッケコルトンプラザ コルトンホール）
3 月 12 日ー 27 日	成果展示開催

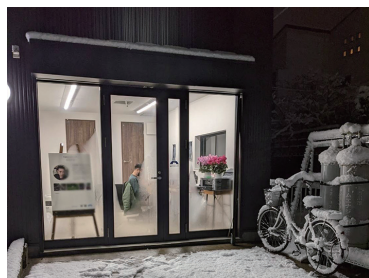
会場について

法華経寺（ほけきょうじ）は、千葉縣市川市にある日蓮宗大本山の寺院で、鎌倉時代の文応元年（1260 年）日蓮聖人が最初に開かれた五勝具足の霊場です。五勝具足とは「授法の発初」「精舎の最初」「寺号の発心」「本尊仏像造立の最初」「説法権与の最初」の 5 つの優れた縁起を供えた寺院のこと。祖師堂、五重塔、法華堂、四足門は国の重要文化財に指定されています。今回の展覧会では、参道、境内、6 つの箇所にて作品が展示されます。



制作スタジオ

中山エリアに用意されたスタジオでは、大槌、川田がそれぞれ滞在制作を行いました。大川に用意されたスタジオでは、市内の教育機関の子ども達や、市民の方々に向けての参加型のワークショップが開催されました。



大槌秀樹 滞在制作スタジオ



川田龍 滞在制作スタジオ



大川友希 ワークショップスタジオ

ワークショップ

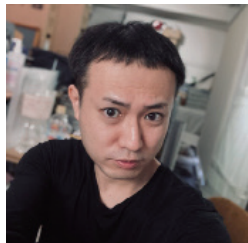
市内幼稚園等に大川が出向き、ワークショップを実施しました。また、スタジオでも市民に向けたワークショップを開催。そこで制作されたパーツを繋げて大川が「のぼり」を制作します。作られたのぼりは中山法華経寺の参道に展示されます。





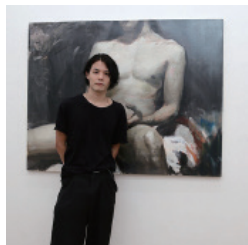
出展作家

大槌秀樹 (Hideki Ozuchi) 滞在制作



1981 年 千葉県生まれ。山形市在住。2009 年 東北芸術工科大学大学院実験芸術領域修了。
2019 年「岡本太郎賞」／入選 2020 年「札幌国際芸術祭 2020」
市川市中山エリアの中山法華経寺及び参道・寺町を舞台に、古代西洋の神々のポーキング撮影を行いその記録を作品として制作する。仏教を中心とした歴史を持つ中山町と、自然や環境を示唆する古代西洋の神々を並立させ、相互の魅力が引ききたつ展示をする。また、中山町に滞在するにあたり、町に残る営みや、歴史、様々な記録や状況に「火を灯す」映像作品の制作を行う。

川田龍 (Ryo Kawada) 滞在制作



1988 年 新潟県生まれ。
2015 年 東京造形大学美術科絵画専攻卒業。2018 年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了。
個展 2020 年「Self-portrait」／Bambinart Gallery(東京) 2019 年「Classic」／THE SECRET MUSEUM(東京) 2018 年「figment」／Bambinart Gallery(東京) 2016 年「Guise」／Bambinart Gallery(東京) 2014 年「ウロボロス」／Bambinart Gallery(東京) グループ展 2021 年「ブルーピリオド× ArtSticker」／hotel koe tokyo (東京)「ストレンジャーによろしく」／金沢アートグミほか(石川)「嘔吐学 vol.2 greenery efficacy」／WALLA(東京) 2020 年「ブレイク前夜展」／ヒルサイドフォーラム(東京) 2019 年「NEW EMOTION」／六本木ヒルズ A/D ギャラリー (東京)「3331 Art Fair 2019」／アーツ千代田 3331(東京) 主な受賞 2018 年「アートアワードトーキョー丸の内 2018」／丸の内賞(オーディエンス賞) 受賞 2015 年「第 2 回 CAF 賞」／入選 2014 年「東京ワンダーウォール 2014」／入選 2013 年「TAMA ART COMPETITION 2013」／天明屋尚賞 受賞「TURNER AWARD 2013」／未来賞 受賞
自分の身近な人、友人や物を、西洋絵画の象徴的な人物画や静物画のモチーフに見立てて描き、モチーフや構図の意味性を失わせることで純化を試み、絵画の本質を探索する制作を続けている。ピーテル・パウル・ルーベンス作の三連祭壇画「十字架昇架図」の構図を参照し、200 号縦構図、三枚組の油彩作品を計画している。

大川友希 (Yuki Okawa) ワークショップ



1987 年 千葉県木更津市生まれ。2012 年 愛知県立芸術大学彫刻専攻卒業。
物に残る記憶や時間、思い出の断片を掘り下げ、繋げて、新たな時間のかたちとして再構成した立体作品やインスタレーション作品を制作。
2013 年 天明屋尚プロデュースにより TENGAIGALLERY にて個展。その後も、個展開催や企画展に参加。2018 年 NY にて古着を集め、滞在制作と展覧会を開催。最近では、古着を用いたワークショップや建築家 / 湊健雄と共に依頼者の古着で家具を作り替えるプロジェクトにも力を入れている。2021 年「奥能登国際芸術祭」にて地元市民と共に制作した作品を出展。
古着や布の断片を利用し、ワークショップ開催地周辺の歴史や記憶を調査し、地域住民との交流などを通して子どもから大人まで参加できるワークショップ内容を考えていきたい。

東弘一郎 (Koichiro Azuma) 展覧会出品



1998 年 東京都生まれ。東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科卒業。同大学院在籍中。
地域のフィールドワークをベースに、自転車などのジャンクと金属を組み合わせて、主に動く立体作品を制作している。
2018 年 宮田亮平受賞。第 24 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞) 入選。主な展示に「今年の越後妻有 (越後妻有 大地の芸術祭 2021 関連企画)」、「春のアート展 (GINZA SIX 鳥屋書店)」など
遊具かつ現代アート作品「自連車」を制作し、展示する。鑑賞者は実際に自転車に乗車し体験することができる。全ての車輪は連動しており、鑑賞者が先頭の車輪を漕いで回すことで作品が一斉に動き始める仕掛けだ。独創的な遊具として地域で目を引く作品を目指したい。
また、この作品で取り扱う自転車は、地域で乗られなくなってしまった自転車である。地域の住民を訪ね自転車を収集する予定であるが、同時に地域のフィールドワークを行うことで地理的特性や風土、地域の抱える問題点などを垣間見る予定だ。感染症等で配慮が必要なご時世ではあるが、地域の人々と関わり合いながらの制作を大切にしたい。

大塚理司 (Rishi Otsuka) 展覧会出品



1955 年 東京都生まれ。1978 年 早稲田大学卒業。
1980 年「古流協会審査制展」出品、受賞。以後各種華道展に出品を重ねる。
個展 真木・村田画廊(東京) 1997 年「大清湖国際野外美術展」(清州・韓国) 1999 年「いけばなから '99」／新都市ホール(横浜) 2001 年「Japan2001 Crossovers」(ロンドン・イギリス) 2006, 09, 12 年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(新潟) 2007 年「神戸ビエンナーレ・アートインコンテナコンペティション」(神戸) 2017, 19 年「新しいけな主義展」(神奈川県、東京)
過去に制作した作品をリメイクしてオブジェを制作する。藁を編み込んで作った平面状のものを三枚一組で一体として四体で構成。今回は同様のものを約 10 枚用いて一体のオブジェとして作品化します。寺内の一角に設置して、諸々の鎮魂の意味を込めた作品で作品名を「祈りの形象 (かたち)」とします。



原倫太郎 (Rintaro Hara) 展覧会出品



1973 年 神奈川県生まれ。1997 年 東京造形大学デザイン学科卒業。
2000 年サンドヴェルグ・インスティテュート美術学科修了。主に大掛かりなキネティック・インスタレーションを制作している。
近年の展覧会に 2014 年「Synthesis」Reykjavik Art Museum Hafnarhus / レイキャビック (アイスランド)、2016 年「鉄道美術館展」/ 川崎市岡本太郎美術館 (神奈川) 2018 年個展「上昇と下降 - 白夜と極夜 -」/ フォーラムボックス (ヘルシンキ・フィンランド) などがある。また原倫太郎 + 原游として、2012、2015 年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(新潟)、2017、2021 年「北アルプス国際芸術祭」(長野)、2019 年「瀬戸内国際芸術祭」(香川)、2019、2020 年「水遊び博覧会」/ 越後妻有里山現代美術館 [キナーレ] (新潟) などに参加。2008 年、絵本『匂いをかがれるかぐや姫〜日本昔ばなし Remix 〜』が文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門において奨励賞を受賞。

建物の空間内部を、“発光する動く紐”という手法で描く、空中ドローイングを展開する。ドローイングとは基本的に平面にペンや筆で図像を描いていく表現であるが、この手法を使えば空中に描くことも可能である。描かれるイメージは、その建物や近隣の背景にある歴史や風景だったり、人々の取り留めのない日常であったりと想像が膨らむ。線の軌跡が変化することで、静ではなく動のドローイングで、時間と空間をシンプルに表現する。

ディレクター

豊福 亮



1976 年千葉県生まれ 2000 年株式会社 Office Toyofuku 創設。千葉美術予備校創立、学校長就任。

美術に関わる人材の育成に取り組む一方、芸術祭を中心として自身の作品を展開。定期的に美術をテーマとしたワークショップを開催。自身の作品を発展させたものや、その地域の自然と触れ合い、交流を深めながら制作を行うものなど、様々な内容を展開している。また、近年では作家としてだけでなくアートディレクション活動を開始。いちばらアート×ミックス 2020 では、アートディレクターとして芸術祭に携わっている

同時開催 第 2 回 KUGURU 展 「アートな暖簾の参道を歩こう」のご案内

市川市真間エリア等の店舗に公募で選ばれたアーティストデザインの暖簾が並びます。

会期：2022 年 3 月 1 日 (火) - 3 月 27 日 (日)

会場：大門通り、市川手児奈通り、市川駅前西通り周辺の 71 店舗が参加

真間山弘法寺 (千葉県市川市真間 4 丁目 9-1) 立体作品、コンテンポラリーダンス

主催：ICHIKAWA ART CITY 実行委員会

問合せ：電話 047-712-8557



広報用画像



①中山法華経寺



②滞在制作スタジオ



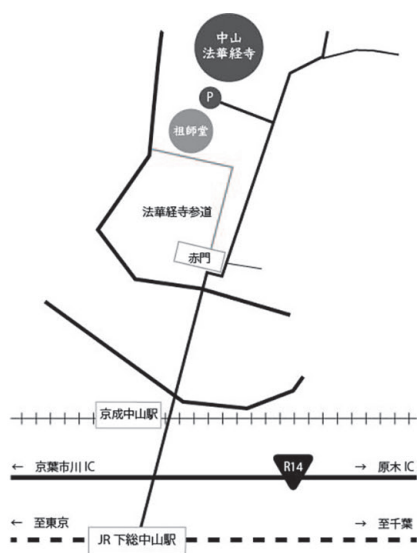
③プレ展示の様子 Photo：田村融市郎

2022/3 月吉日



アクセス

電車で：JR 下総中山駅下車、徒歩 10 分。京成中山駅下車徒歩 5 分
お車で：京葉道路原木 IC、市川 IC よりそれぞれ約 15 分



ご来場に関するお願い

- ・マスクの常時着用にご協力ください。
- ・咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒にご協力ください。
- ・平熱と比べ、高い発熱がある場合はご入場をお断りする場合がございます。
- ・大きな声での発生はできるだけお控えください。
- ・許可されたエリア以外でのご飲食はお控えください。

広報に関するお問合せ

ICHIKAWA ART CITY 実行委員会 Nakayama AIR 広報 担当 渥美（株式会社 Office Toyofuku）

電話 09018300102

E-mail info.nakayamaair@gmail.com